

# 府浜の昔



昭和40年頃のちりめん漁の風景

昭和35年頃までは、ほうたれ漁(カタクチイワシ)が主で、夜は沖(ほうたれ漁)に出で、昼は山(サツマイモ・麦・梨)で生計を立てていました。が、この頃を境に海は昼間のちりめん漁や真珠・漁類などの養殖漁業に、山は柑橘栽培にと変化っていました。当時の生活はとても裕福とは言えませんでしたが、地域のみんなで同じ仕事を行い、どこの家の子供も自分の家の子供のように育てられました。義理・人情たっぷりで、とても心豊かな地域です。今もその気持ちは受け継がれています。

府浜の里から 十月二十二日に三年ぶりにお祭りが賑やかに開催されました。  
なんとか台風の影響もまぬかれ、山のみかんもオレンジ色に色付き収穫の時期を迎え、山は灌水をしながらの作業とほって  
います。雨が少なくて、  
府浜の里から 十月二十二日に三年ぶりにお祭りが賑やかに開催されました。  
なんとか台風の影響もまぬかれ、山のみかんもオレンジ色に色付き収穫の時期を迎え、山は灌水をしながらの作業とほって  
います。雨が少なくて、



祇園丸

網元  
祇園丸

第66号 令和4年11月14日発行

〒799-0113  
愛媛県西予市明浜町府浜1-217-1  
(TEL) 0894-65-0918  
0894-89-1683  
(FAX) 0894-65-0920  
(Email) info@gionmaru.com  
<http://gionmaru.com>

## 今回のおすすめ料理

### —ちりめんじゃこの卵とじ—

(材料) ちりめんじゃこ 50g, 卵 2ヶ

(4人分) ★砂糖 小さじ1, ★しょうゆ 小さじ1  
ごま油 大さじ1, ねぎ 少々

- (作り方)
- 卵を割り、★を混ぜておく。
  - フライパンを温め、ごま油を入れ、ちりめんをすっと焼める。
  - ぶんわりと卵でとじる。
  - 器に盛って、ねぎをちらす。

「生まれてバンザイ！」こんにちは！智三郎の妻、景子です。今日は家族が増えたので紹介させていただきます。3度目の妊娠生活は、色々と制限が多く、とても長く感じましたが、娘達が妊娠をとても喜んでくれ、幸せな毎日でした。1年生になった美緒(7歳)は日に日に大きくなる私のお腹に聴診器をあてて赤ちゃんの心音を探し、「うわ～みおちゃんが走った時と同じドキドキ！」と。次女の帆乃美(5歳)は、サランラップの芯を使って毎日赤ちゃんに話しかけてくれました。そして神社に行くと「神様、女の子の赤ちゃんにして下さい」と深々とお辞儀をし、お姉ちゃんによる日を待ちにしていました。娘達と一緒にエコを見に行ったり、性別が女の子とわかり、帆乃美の願いが通じられて大喜びでした。皆が楽しみに待っていた赤ちゃん。皆に支えられて7月21日に元気いっぱいに生まれました！「バンザイの姿勢で眠りいる吾子よ どうぞバンザイ生まれてバンザイ」(俵万智さんの短歌より) 質やかなお姉ちゃん達に囲まれてもグーグーとマイペースによく眠る赤ちゃんです。名前は杏美(あみ)と言います。どうぞよろしくお願ひします。女の子ばかりになりましてが、娘達にはいつもどちらさん大好き子でいてほしいです。

## 「3年ぶりの秋祭りを終えて」

神社・拝殿の修復やコロナウイルスの影響などにより、3年ぶりの開催となりました。お祭りを行うかどうか、何度も議論されましたか、今年は近年になく小学生の子供達が多く、ぜひこの祭りを今、子供達に経験させることが、将来の狩浜地区への投資ではないかという意見が多く、区長さんや神社関係者の方々のお骨折りをいたしました。執り行われました。今年も祭りを行うために20数名程の居者達が帰省し、この祭りを支えてくれました。また、参加者全員の抗原検査と会食での注意点等



細心の注意を払って行われ

ました。そのお陰でコロナウイルスの発生は1件もありませんでした。改めて狩浜地区の真面目さとすばらしさを感じた祭りでした。来年もぜひ行われるよう願っています。

三海から

10月の後半より色の白いそれいちはちりめんが少しずつあがっていますが、環境の変化のせいいか、今年は全国的な不漁で、今後の漁に不安を感じています。今後は他産地と情報共有してながら、お互いが手を取り助け合ってながら、この水産業を守っていかなければならぬ時代が来てのかと考えさせられる一年でした。